

生育旺盛で、多収な冬系キャベツ 『YR冬晴 (00051YR)』の 品種特性と栽培のポイント

雪印種苗(株)
千葉研究農場 佐々木 則雄

1.はじめに

キャベツは、周年で供給されている重要な野菜のひとつです。西南暖地から出荷が始まり、兵庫県、愛知県と産地を代え、西日本ではお好み焼き等の素材としてなくてはならない原料となっていますし、東日本でも、時期ごとに産地を代えながら、様々な料理の脇役として、膨大な青果・加工需要に対応しています。

秋冬～春の収穫の産地は主に一般地～暖地で、それぞれの産地に固有の土質や天候に応じた品種を作型毎に導入し効率良く収量を上げています。

今回は、一般地・暖地での年内収穫を中心とした特性を発揮する新品種『YR冬晴』（試作系統名00051YR）をご紹介いたします。

2.『YR冬晴』の品種特性

一般に年内収穫の作型の品種には夏秋系のキャベツが多く利用されており、外葉がコンパクトで草姿は開張性の品種が多く、収穫作業に向く特性を持っています。一方、その草姿のため寒さに弱く、アントシアンの発生や寒焼けの発生などで品質の低下が見られます。

また一般に年明け収穫の作型では冬系のキャベツが多く利用されており、降霜による被害軽減のため、外葉が立性で旺盛に生育する品種が多く、耐寒性に優れた草姿をしております。葉質が硬く青果物としては少々不向きですが、業務・加工用に向く品種として数多く育成されています。

『YR冬晴』は、夏秋系とやや晩生の夏秋系との組み合わせで育成しました。生育旺盛で耐寒性のある草姿と肥大性、サクサクとした食感の葉質を持つ、夏秋キャベツと冬系キャベツの欠点と作型を補う品種となります。

1) 生育

- ・定植後75日で収穫に達する中生種。下降気温でも葉傷み少なく、ゆっくりと肥大し、生育旺盛で玉伸びの良い品種です。
- ・外葉は鮮やかな緑色でやや長め、草姿はやや立性で、草勢は非常に強い品種です。

2) 品質

- ・球は正円の扁平球で、球内色は鮮やかな黄色、球色は鮮やかな緑色で見栄え良く仕上がります。
- ・食味は寒玉系としてはやわらかな葉質で、青臭み少なく、味の良い冬系キャベツです。

3) 栽植密度

- ・5000～5500株／10aを標準とし、圃場の条件により調整してください。

4) 耐病性

- ・イオウ病に対しては、Aタイプ抵抗性を付与しており安心です。
- ・黒腐病に対しては、強いほうです



写真1. 低温期でも生育旺盛で玉伸びに優れる



写真2. 品質の良い冬系キャベツ

3. 作型

	7月	8月	9月	10月	11月	12月
一般地	●	●	▲		■	■
暖 地		●	●	▲	■	■

●：播種期
▲：定植期
■：収穫期

が台風などの強風後は、早めに、銅剤等での防除を行い、その後は定期的な散布で対応してください。

- ・株腐れ病については定植後の湿度の高い条件下で発生しやすいので、定期的に防除をしてください。
- ・菌核病は防除基準に従って、定期的な薬剤散布を行って下さい。

4. 栽培上の注意点

『YR冬晴』は根量多く、吸肥力が強い品種です。そのため高温期に多肥で管理すると、外葉および結球葉が徒長し、球内の充実が遅れ、結果として規格外の大きさになってしまいますので追肥型で管理して下さい。特に重粘質土壌などの肥沃な地域での施肥は2回に分けて追肥して下さい。

肥効が切れるとアントシアンが発生しやすくなります。また、無理な遅まきはアントシアンが見られるので行わないで下さい。

育苗時の夕方灌水は、胚軸の徒長やベと病を誘発するので控えて下さい。苗のしおれが激しいときはその部分だけ軽く灌水し、湿度の高い夜間の灌水もなるべく控えて下さい。

5. むすび

今回紹介しました『YR冬晴』は、下降気温での収穫に適した品質の良いキャベツです。上記の特性を理解して、良品生産をお願いします。



写真4. 一般地での栽培風景



写真5. 根張りが良く吸肥力が強い